

令和7年11月19日

岡山市長 大 森 雅 夫 様

岡山市基本政策審議会
会長 阿 部 宏 史

岡山市第七次総合計画の策定について（答申）

令和7年5月26日付け岡政企第274号で諮問のありました次期岡山市総合計画の策定について、本審議会では慎重に審議、検討を重ねた結果を別紙のとおり答申します。

岡山市第七次総合計画

長期構想（答申）

I. 策定にあたって

岡山市は、岡山市第六次総合計画（平成28年度～令和7年度）に基づき、豊富な地域資源をいかしながら、都市に躍動感を創出し、住みやすさと安全・安心に磨きをかけることにより、都市の総合力を高めてきました。

この間、人口は令和2年国勢調査で過去最高の72万4千人となり、また、市内総生産をはじめ経済指標も順調な伸びを示すなど、岡山市のまちは着実に成長を続けています。

しかしながら、全国的に加速する人口減少・少子高齢化は、岡山市でも例外なく進行しており、人口減少の抑制と適応を図りながら住みやすさと都市の成長を共に実現する持続可能なまちづくりをより一層深化していく必要があります。

また、地球規模で進む気候変動やそれらに起因する大規模自然災害への対応、国内外での岡山市のプレゼンス向上など、視野を世界に広げた取組や、急速に進化するデジタル技術のまちづくりへの実装等が求められています。

さらに、価値観が多様化する中、市民誰もが自分らしく活躍でき、希望がかなう社会づくりや、より良い暮らしを心豊かに送るための環境づくり、地域への愛着と誇りの醸成を図ることなどが重要となっています。

市政を取り巻く状況が絶えず変化し続ける中、岡山市がめざす理想のまちの姿を実現するためには、市民をはじめ多様な主体との協働が不可欠です。

このため、まちの将来像を市民と行政が共有し、諸課題の解決に向けてともに考え、行動するための羅針盤として、新たな総合計画を策定します。

II. 長期構想の目的・期間

長期構想では、岡山市のめざす「将来都市像」と、それを実現するための「まちづくりの基本的な視点」を定めます。

長期構想の期間は、令和8年度から令和17年度までの10年間とします。

III. 岡山市の強みと特性

1. 高次都市機能の集積、中四国の交通のクロスポイント

- ・岡山市の人口は岡山県の4割近くを占め、圏域の中心都市として、商業・業務、医療・福祉、教育・文化、コンベンション等の高次の都市機能が集積しています。近年は民間企業の本社数等が増加し、経済活動における拠点性が一層高まっています。
- ・明治時代の第六高等学校、岡山医科大学、戦後に開設された岡山大学等、古くから高等教育機関が設置された歴史があり、現在でも、政令指定都市の中で人口当たりの大学数・大学生数が多い、中四国地方の学術・研究の拠点都市となっています。
- ・近畿と九州を結ぶ東西軸と、山陰と四国をつなぐ南北軸のクロスポイントに位置し、高速道路網、鉄道網、航空網など、全国的にも非常に優れた交通の広域拠点性を有しています。

2. 災害が少なく温暖な気候と豊かな自然環境、豊富な医療・介護資源

- ・岡山市は、年間を通して気温や天気が安定した恵まれた気候で、全国でも特に降水量が少ないことから、「晴れの国」と呼ばれており、また、直下に活断層が存在せず、自然災害が少ない都市としても知られています。
- ・広大な市域の中に、北部の吉備高原とそれに連なる緑濃い山並や棚田の原風景、市街地周辺の操山・龍ノ口山、南部の干拓により生まれた肥沃な田園地帯、市域を貫流し瀬戸内海に注ぐ旭川・吉井川など、豊かで多様性に溢れる自然環境を有しています。
- ・岡山藩医学館をルーツとする岡山大学病院など、医療分野の最先端の研究や、高度な医療サービスの提供が可能な医療機関が集積するとともに、介護サービス事業所数も多く存在し、豊富な医療・介護資源の蓄積が市民の安心を支えています。

3. 先人から引き継ぐ固有の歴史・伝統・文化

- ・古代に吉備と呼ばれていた地域の中心部が現在の岡山市域にあたり、広い平野と三大河川をはじめとした水源により、豊かな生産力を備えていました。さらに、瀬戸内海交易の拠点としても繁栄し、3世紀後半から大型古墳が築かれ、5世紀初頭には大和王権の大王墓と同等規模の「造山古墳」が築かれました。吉備は、大和とともに倭国を統治していたと考えられます。
- ・岡山に古くから伝わる「吉備津彦の鬼退治の神話」は「桃太郎伝説」の原型ともされており、そこに登場する鬼神「温羅（うら）」は、今日の夏まつり「うらじゃ」の名前の由来となっています。
- ・戦国時代には宇喜多直家が岡山を本拠として備前と美作を統一、子の秀家が今に残る岡山城を築き、親子二代で城下町を整備し、小早川、池田の2家によって岡山城の拡張と城下町の充実が図られました。その後、池田光政は藩士や庶民の教育のための学校を設立し、光政、綱政の2代に仕えた津田永忠は、日本三名園の一つとして名高い岡山後楽園の築庭のほか、百間川の築造などの治水事業、沖新田などの干拓を行いました。さらに、明治、大正、昭和と続いた児島湾の干拓により、岡山の大地は拓がりました。
- ・こうした歴史を背景に、古墳、城跡などの数多くの国指定史跡を有し、その数は、政令指定都市では京都市に次いで2番目に多くなっています。
- ・また、固有の歴史資源を大切にしながら新たな文化の創出に向けた取組も進めており、令和5（2023）年に文化芸術創造・発信拠点として開館した「岡山芸術創造劇場ハレノワ」は、市内外の多くの人々が鑑賞に訪れるだけでなく、新しい文化芸術が生み出される場にもなっています。

4. 第3次産業中心の産業構造と全国有数の農業都市

- ・岡山市の市内総生産をみると、第3次産業が全体の約8割を占めており、その中では、「卸売業・小売業」が最も高い割合を占めています。また、第2次産業の割合は約2割を占め、政令指定都市平均と比較しても高く、全産業の中で「製造業」の市内総生産に占める割合が最も高くなっています。
- ・全国有数の農業都市であり、恵まれた気候と豊かな自然をいかして、ブランドとして認知されている白桃、マスカット、ピオーネのほか、千両なす、黄にらなどの多彩で質の高い農産物が生産されています。また、特産の岡山のりは全国に出荷されています。

5. 活発な地域活動、世界をリードするESDの取組

- ・明治時代の石井十次による日本初の本格的な孤児院の開設、今日の民生委員制度のモデルとなった大正時代の岡山県済世顧問制度の創設など、岡山市には全国に先駆けた地域活動の歴史があります。こうした福祉や地域を大切にする精神が今に受け継がれており、町内会等の地域団体やNPO法人等の市民活動団体が、安全・安心な地域づくりや地域の課題解決において重要な役割を果たしています。
- ・岡山地域は、持続可能な社会の担い手づくりを進めるESDの地域拠点（RCE）として、平成17（2005）年に国連大学から世界で最初に認定を受けています。その後の継続的な取組の中で、平成26（2014）年の「ESDに関するユネスコ世界会議」、令和7（2025）年の「グローバルRCE会議」等の国際会議の開催地に選定されてきました。また、国際的な賞である「2016年ユネスコ／日本ESD賞」を日本で初めて受賞し、平成30（2018）年には岡山市が国のSDGs未来都市の1つに選定されるなど、ESD、SDGsの先駆的な取組が国内外から高く評価されています。

IV. 時代潮流と課題認識

1. 時代の変化や要請

(1) 少子高齢化・人口減少の加速

- ・日本の総人口は、令和3（2021）年には1億人を下回り、少子化の加速により高齢化率が大きく上昇することが見込まれます。また、若年層を中心とした人口の東京圏への一極集中が進み、地方の人口はますます減少することが懸念されています。
- ・岡山市では、これまで順調に人口が増加し、令和2年国勢調査では過去最高の72万4千人となりましたが、近年は自然減が拡大しており、将来推計によると、既に人口減少局面に突入しているものとみられます。高齢者人口の増加は全国よりも緩やかと見込まれる一方で、合計特殊出生率は人口を維持する水準とは大きな隔たりがあり、中長期的な生産年齢人口の減少への対応が大きな課題となっています。また、地域ごとに人口減少や高齢化のスピードが異なるなど、市内においても人口の偏在が進行しています。
- ・岡山市における若年層の動向をみると、進学や就職を契機として、県内、中四国からは転入超過にある一方、東京圏、大阪圏への転出超過が続いています。
- ・このような状況の中では、これまで進めてきた持続可能な社会の構築に向けた経済社会システムの転換をより一層深化させるとともに、岡山市への新しい人の流れをつくることにより、地域経済の成長と生活の質の向上の好循環を創出していく必要があります。
- ・特に、若者等の大都市圏への人口流出への対応として、若者や女性にも選ばれる魅力的で働きがいのある仕事の創出や地域社会でのアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）の解消等が重要となります。また、生活の安全性や利便性の向上に加え、まちの居心地の良さ、創造性、期待感、高揚感など、多様な要素に溢れる質の高い都市環境

づくりを進める必要があります。それらを通じて、県内や中四国圏域からの進学や就職の受け皿となり、大都市圏への人口流出を防ぐダム機能を一層発揮することが求められています。

- ・さらに、個人の多様な価値観の尊重を前提として、若い世代の結婚や出産の希望がかなえられるよう社会全体で支えるとともに、安心して子育てができる環境づくりを進めることが求められています。

(2) 暮らしの質的向上・多様性への関心の高まり

- ・近年、物質的な豊かさだけではなく、暮らしの質や精神的な充足感、健康などを含めた幸福感をあらわす「ウェルビーイング」への関心が高まっています。また、あらゆる世代がライフステージに応じた学びの機会を得て、個性や能力を最大限に発揮し挑戦できるまちづくりが求められています。
- ・都市を車中心から人中心の空間に変え、居心地が良く、歩きたくなる環境を整えることにより、市民の心身の健康に資するとともに、様々な人が集い活発な交流を広げる場として、多様なつながりの構築や新たな価値の創出を図ることが重要になっています。
- ・社会が成熟し、価値観が多様化する中、年齢・性別・国籍・障害の有無など、一人ひとりが持つ違いを認め合い、自分らしく活躍できるよう、包摂的で多様性に富んだ「誰一人取り残さない」地域社会を実現することが求められます。また、地域コミュニティでは、ゆるやかなつながりの中でお互いを知り、安心感や信頼感の醸成を図ることが重要になります。

(3) デジタル技術の急速な進展

- ・ I o TやA I等のデジタル技術は急速に進展し、人々の生活や企業活動に大きな変革をもたらしています。デジタル技術の有効活用は、人の暮らしをより豊かにするだけでなく、複雑化・多様化する地域課題の解決や新たな価値の創出への貢献が期待されることから、地域や社会におけるデジタル技術の実装を担う人材の育成が急務になっています。
- ・ 労働力を補完する観点からは、A Iやロボティクスの活用による高効率化や高付加価値化の促進が必要であることから、産学官連携や業種間連携によるイノベーションの共創に向けた取組が求められます。
- ・ 岡山市が住みやすく、活力のあるまちとして持続的に発展していくためには、スピード感をもって地域社会や行政サービスのD Xを推進することが重要になります。

(4) グローバル化の進展

- ・ デジタル技術の発展等により、「ヒト、モノ、カネ、情報」の流れが地球規模で拡大する一方で、地政学リスクの高まりなど国際経済情勢の不確実性が高まっています。
- ・ インバウンドが増加し、訪日客の層の拡大により観光ニーズも多様化する中、岡山市が中四国地方の観光の拠点となり、他都市との連携のもと、圏域全体の周遊を促進することが求められています。
- ・ また、外国人労働者や留学生等、海外からの人材の受入れも今後ますます増加する見通しであり、多文化共生の推進が重要になります。
- ・ さらに、ユネスコ創造都市ネットワーク等の海外諸都市とのつながりをいかながら、国際的な役割を發揮することにより、国内外での岡山市のプレゼンスをより一層高めていく必要があります。

(5) 持続可能な環境の保全

- ・ 「気候危機」とも言われる現在の気候変動の状況は、生物多様性の損失をはじめとする環境問題のみならず、経済活動や社会生活に大きな影響を与える問題として認識されています。そうした中、世界各国で産業・社会構造をクリーンエネルギー中心に転換し、脱炭素と産業競争力の両立をめざす取組が加速しています。
- ・ 国は令和2（2020）年に、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする目標を掲げ、岡山市も令和3（2021）年に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、同目標の達成に向けて各種取組を進めています。
- ・ 質の高い暮らしの基礎となる豊かな自然環境を将来世代に引き継ぐためにも、E S D活動等の蓄積をいかして、持続可能な社会を構築することが求められます。

(6) 大規模自然災害への対応

- ・ 近年の急激な気候変動により、台風や豪雨等による風水害が激甚化し、岡山市に甚大な被害をもたらした「平成30年7月豪雨」をはじめ、全国で記録的な大雨による大規模被害が頻発しています。また、南海トラフ巨大地震は、今後30年以内の発生確率が最も高い「Ⅲランク」とされており、発生の切迫性が非常に高い水準にあります。
- ・ 岡山市においても、来るべき災害に備え、国土強靱化や流域治水の考え方のもと、ハード・ソフト両面から総合的な防災・減災対策の一層の推進が求められています。また、道路や橋梁、上下水道等のインフラは、今後20年間で建設後50年以上が経過するものの割合が急増する見込みであり、耐震化を含め、戦略的な老朽化対策を行うことが急務となっています。

2. 市民の課題認識

世代を超えたつながりの醸成、「岡山にしかない魅力」の再認識

- ・ 「岡山市に住み続けたい」、「住んでいる地域に愛着がある」と思う市民の割合はいずれも7割以上となっており、住みやすさへの評価や愛着の醸成が一定程度進む一方で、全国からの認知度は必ずしも高いとは言えない状況にあります。都市ブランドの向上に加え、地域への愛着や関心をさらに高め、対外的に発信することが課題となっています。
- ・ 近年、地域資源をいかして地元を盛り上げたいという熱意の高まりや、スポーツ界の活躍と盛り上がりなど、まちへの愛着や誇りの醸成につながる動きが活発になっています。
- ・ また、総合計画策定に向けて実施したワークショップでは、さらなる賑わいや活気を期待する声や、世代を超えた交流の促進や多様なつながりの醸成、まちに誇りを持つことを大切にしたいという意識の高まりが見られたところです。
- ・ このような中で、岡山市固有の地域資源を再認識し、共に学びあい、それらをいかした取組を進めつつ、新たに創り上げた「岡山にしかない魅力」を積極的に発信することにより、国内外から注目される誇れるまちづくりを進めることが求められています。

V. 将来都市像

“わくわくする” 桃太郎のまち岡山 ～つながり 輝き 幸せ実感～

- 岡山市は、これまでのまちづくりにおいて、喫緊の課題であった子育て環境の充実をはじめ、まちの活力創出、地域振興、健康・福祉や安全・安心の充実など、あらゆる分野で直面する課題を一つひとつ克服し、市民の最大幸福の実現と都市の持続的な発展に向けた「変化」を創り出してきました。
- 時代の転換期にあり、少子高齢化・人口減少の加速をはじめ市政の課題がますます複雑化・多様化する中、さらなる成長に向けて、交通の至便性や多様で豊かな地域資源等の岡山市の強み・特性を最大限にいかしつつ、「わくわく感」をさらに高めるまちづくりを進めることにより、都市の総合力を一層高め、10年、20年先へとつながる未来を切り拓いていきます。
- そのため、地域固有の歴史・文化や、芸術、スポーツ等をいかした様々な交流・つながりの促進、チャレンジするすべての人や事業者への後押し等を進めます。これらを通じて生み出される新たな魅力や価値が、岡山市を一層住みやすく、そして人の心が自然と弾む、より良いまちへと進化させることにより、愛着と誇りを持てる「桃太郎のまち岡山」の実現をめざします。

【「つながる力」でひと・まち・地域が輝く】

- これまで築き上げてきたまちや地域の力、経済の力、そして人の力をつなぎ高めることによって、生活する場所と楽しむ場所との調和を大切にしながら、暮らしの質とまちの活力をさらに向上させ、未来に向けて成長を続けるまちづくりを進めます。
- 中四国をつなぐ瀬戸内の中核拠点都市として圏域の成長をリードしながら、歴史、文化、芸術、スポーツ等が持つ力をいかして、地域や世代を超えたつながりを深め、多様な人材が集い交流する中で、それぞれの知恵や経験、思いや情熱を交差させ、新たな魅力や価値を創造するまちをめざします。
- あわせて、日本の昔話として知られ、全国的に知名度が高い「桃太郎」に代表される、過去から今日まで連綿と紡がれてきた「岡山にしかない魅力」を再認識し、磨き上げ、積極的に発信します。
- まちの主役である市民とめざすまちの姿を共有し、その実現に向けて協働・共創して持続可能で活力ある地域づくりを進めます。

【一人ひとりが自分らしく暮らせ、幸せを実感できる】

- 岡山に生まれ、育ち、学び、働き、活動する一人ひとりが、その

人らしく生きるための選択肢が用意され、互いに多様な価値を尊重し、支え合う中で、誰もが希望や夢の実現に向かって取り組むことのできる、心豊かな「人中心」のまちづくりを進めます。

- 都市と自然の魅力が調和するまちの特性をいかし、仕事や地域での様々な活動、趣味や学びの機会等を通じて、豊かなライフスタイルを実感できる環境を創出します。

【「わくわく感」あふれる、より誇れるまちへ】

- 岡山市の魅力である「住みやすさ」に一層の磨きをかけつつ、まちの「楽しさ」を充実させ、「わくわく感」をさらに高めることにより、魅力と活力に溢れ、誰もが幸せを実感しながら安心して暮らせる、より総合力の高いまちを実現します。あわせて、国内外でのプレゼンスを高めることにより、市民のまちへの「愛着」を深め、住み続けることへの「誇り」を高めます。
- このような岡山市の姿を新たな求心力として、市外からさらに多くの人や企業を惹きつけ、呼び込む好循環を生み出し、国内外から選ばれるまちをめざします。

【将来都市像コンセプト】

“わくわくする” 桃太郎のまち岡山

「わくわく感」あふれる、より誇れるまちへ

「つながる力」でひと・まち・地域が輝く

自分らしく暮らせ、幸せを実感できる

多様な選択肢
希望が叶う
活躍できる

圏域をリード
新たな価値の提供
つながり・交流

暮らしの質
の向上

都市の成長
活力の創出

愛着・誇りの醸成

「岡山にしかない魅力」を

知り、共感し、
磨き上げる

国内外に
積極的に発信

安全・安心の充実



VI. まちづくりの基本的な視点

○将来都市像の実現に向け、以下の4つの「まちづくりの基本的な視点」を大切にして各政策分野の取組を進めます。

○「暮らしの質の向上」と「都市の成長・活力の創出」の二本の柱の好循環を生み出しながら、これらの基盤となる「安全・安心」を充実させることにより、魅力と活力に溢れ、市民の「愛着と誇り」を高めるまちづくりを進めます。

■視点1：暮らしの質の向上

○あらゆる世代の市民が、一人ひとりの違いを認め合い、互いの権利や考え方を尊重しながら共生し、それぞれのライフステージにおける希望がかなうまちづくりを進めます。

○教育・文化・医療等の都市機能の充実や、子育てと仕事の両立がしやすい環境など、「住みやすいまち」としての魅力をさらに高めることにより、市民誰もが心豊かにいきいきと暮らせるまちづくりを進めます。

○未来を担うこどもたち一人ひとりが将来に夢と希望を持って健やかに育つよう、こども・若者の権利を尊重し、最善の利益を追求します。

○若者、女性がそれぞれの望むライフプランを実現し、未来に希望をもって暮らし、働き、活躍でき、幸せを実感できる地域づくりを促進します。

○人生100年時代を迎える中、誰もが生涯にわたる学びを重ね、住み慣れた地域で互いに支え合いながら、健康にその人らしく暮らせるまちづくりを進めます。

■視点2：都市の成長・活力の創出

○人口減少に伴う経済規模の縮小が見込まれる中でも、まちの「稼ぐ力」を一層高めるとともに、地域内における経済循環を高めることにより、経済を持続的に成長させ、圏域全体の活力の創出へとつなげます。

○市内事業者の様々なチャレンジによる高付加価値化の促進、賃金向上への後押し等により、更なる収益向上と消費の拡大による地域経済の好循環を創出します。また、国内外から人や企業を呼び込み、地域経済に新たな価値を生み出します。

○文化・芸術、ESDなど様々な国内外との多様な交流を進めることにより、岡山市の国際的なプレゼンスを高めます。

○まちなかでは、都市機能の充実や歴史・文化、芸術、スポーツ、緑と水などの魅力を高め、賑わいの創出を進めるとともに、観光・MICE、ビジネス等を通じた交流を活性化させ、都市の成長をけん引します。

○各地域では、歴史・文化、自然、食など、それぞれが持つ独自の価値を市民とともに磨き上げて発信し、活力ある地域づくりを進めます。また、地域とまちなかとの結びつきを強め、人・もの・情報の双方向の流れを活性化させるとともに、地域とまちなかのバランスのとれた発展に意を用いながら、それぞれの賑わいや魅力を岡山市全域へと波及させます。

■視点3：安全・安心の充実

- まちづくりの土台となる「安全・安心」を充実させるとともに、豊かな自然環境と質の高い都市機能のどちらも享受できる都市特性を高めることにより、市民が日常生活の中で安らぎを感じながら、心豊かに暮らせる環境を整えます。
- 自然災害への備えに万全を期すため、都市基盤の計画的な整備・更新等を進めるとともに、一人ひとりの防災意識と地域での共助の基盤強化を進め、災害対応力を高めていきます。また、地域のつながる力を高めつつ、地域防犯力を強化することにより、暮らしの安全・安心を確保します。
- 市民の暮らしを支える拠点の形成や交通ネットワークの充実、景観の保全・活用や身近な生活環境の改善等を通して、安全で快適・便利に暮らせるまちづくりを進めます。
- 気候変動への緩和と適応の両面から、脱炭素化や自然との共生、循環型社会の構築に向けた取組を地域社会全体で実践することにより、自然環境と調和した豊かな暮らしを次世代に継承します。

■視点4：愛着・誇りの醸成

- 幸福度の高い暮らしとまちの更なる活性化を両立させ、岡山市が未来に向けて進化し続けるまちづくりを進めるため、市民をはじめ様々な主体がまちづくりに関わり、ともに考え、ともに行動しながら、協働・共創して各種取組を推進します。
- このような取組を進める中で、それぞれの地域や岡山のまち全体の特性・個性への理解を深め、互いに共有し、これらを「まちの魅力」として積極的に発信することにより、国内外での認知度を高め、市民の岡山への愛着と誇りの醸成につなげます。
- こどもの頃から岡山の豊かな自然や固有の歴史・文化を学び親しむことにより、地域を知り、地域を大切に思う心を育みます。また、歴史・文化、スポーツ等が持つ「つながる力」をいかし、様々な交流・連携を深めて、まちの活性化や一体感の醸成につなげます。
- 市民一人ひとりのまちへの関心の高まりが、地域づくり活動の活性化やまちへの愛着の高まりへとつながり、更なるまちの魅力と活力が創出されることにより、市民誰もが住み続けたい、人に薦めたい、より誇れるまちの実現をめざします。

岡山市第七次総合計画

前期中期計画（答申）

1. 総論

I. 基本的な枠組み

1. 計画の位置づけ

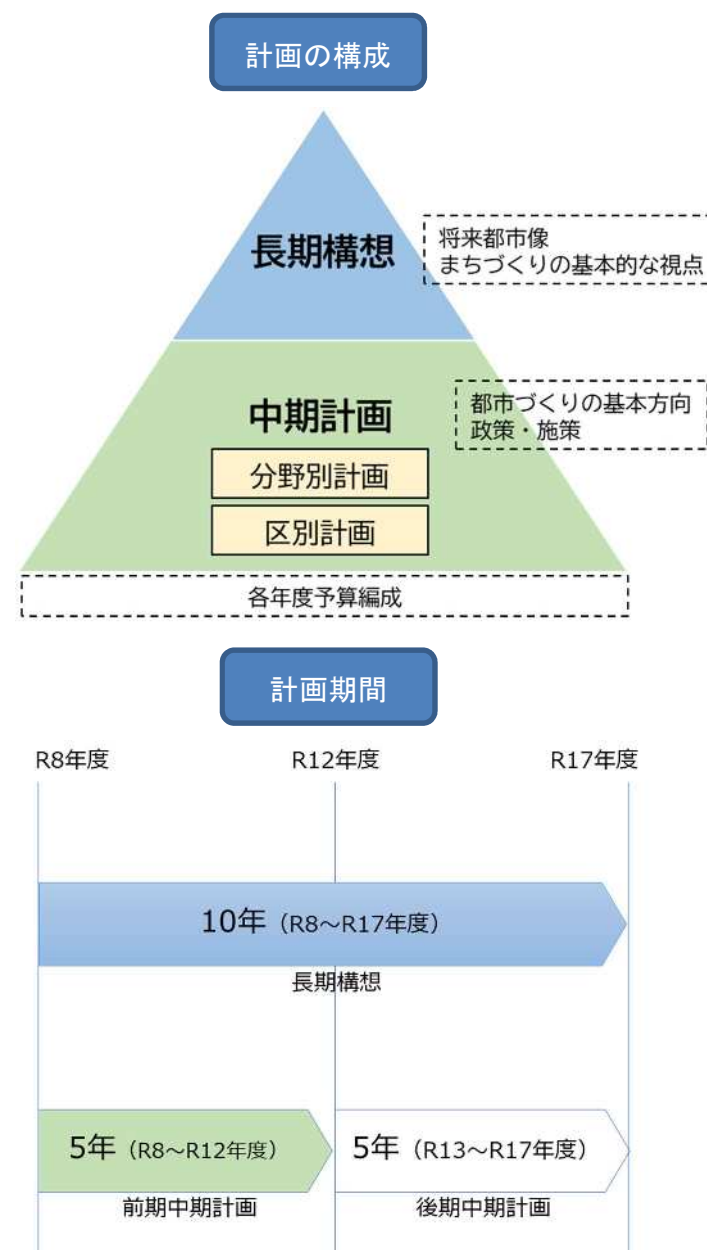
- ・ 前期中期計画は、長期構想に掲げる「将来都市像」の実現に向けて、令和12年度までの5年間における政策・施策の体系を明らかにし、具体的な施策展開の方向性を示すものであり、岡山市の都市づくりを総合的・計画的に推進していくための指針となるものです。

2. 計画の構成

- ・ 前期中期計画は、主として分野別計画と区別計画で構成しています。
- ・ 分野別計画では、長期構想における4つの「まちづくりの基本的な視点」をもとに、7つの政策分野に都市経営を加えた8つの「都市づくりの基本方向」を定めています。
- ・ また、「都市づくりの基本方向」ごとの現状と課題を踏まえて、30の政策を設け、各政策を推進するための99の施策を設定しています。
- ・ 区別計画では、各区の特徴的な課題に対応し、区の特性をいかしたまちづくりを市民との協働により進めるため、市民と共有する「区づくりの将来目標」を掲げ、その実現に向けて各区で重点的に推進すべき施策や市民生活に密着した施策を示しています。

3. 計画の期間

- ・ 前期中期計画の計画期間は、長期構想の期間である令和8年度から令和17年度までの10年間のうち、前半の5年間（令和8年度から令和12年度まで）の5年間とします。



4. 計画の進行管理

- ・ 前期中期計画は、P D C Aサイクルの考え方に基づいた進行管理を行います。
- ・ 進行管理に当たっては、30の政策ごとに成果指標を設定し、各施策のもとで実施する取組の達成状況を評価し、ホームページで公表します。
- ・ 各施策のもとで実施する取組は、達成状況や各個別計画の進捗管理等を勘案しながら、見直しや重点化を図り、予算編成に反映することで計画を着実に推進します。

5. 前期中期計画と持続可能な開発目標（SDGs）との関係性

- ・ 持続可能な開発目標（SDGs）は「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、経済、社会、環境等の広範な課題に対して、先進国を含むすべての国々が2030年までに取り組む目標を定めたもので、17のゴールから構成されています。
- ・ SDGsがめざす社会は、長期構想に掲げる「将来都市像」や「まちづくりの基本的な視点」と方向性を同じくするものであることから、前期中期計画の推進はSDGsの目標達成にも寄与します。
- ・ また、これまで岡山市が先進的に取り組んできた持続可能な開発のための教育（ESD）は、「持続可能な社会の担い手」を育むものであることから、前期中期計画及びSDGsの目標達成に向けて引き続き推進していきます。

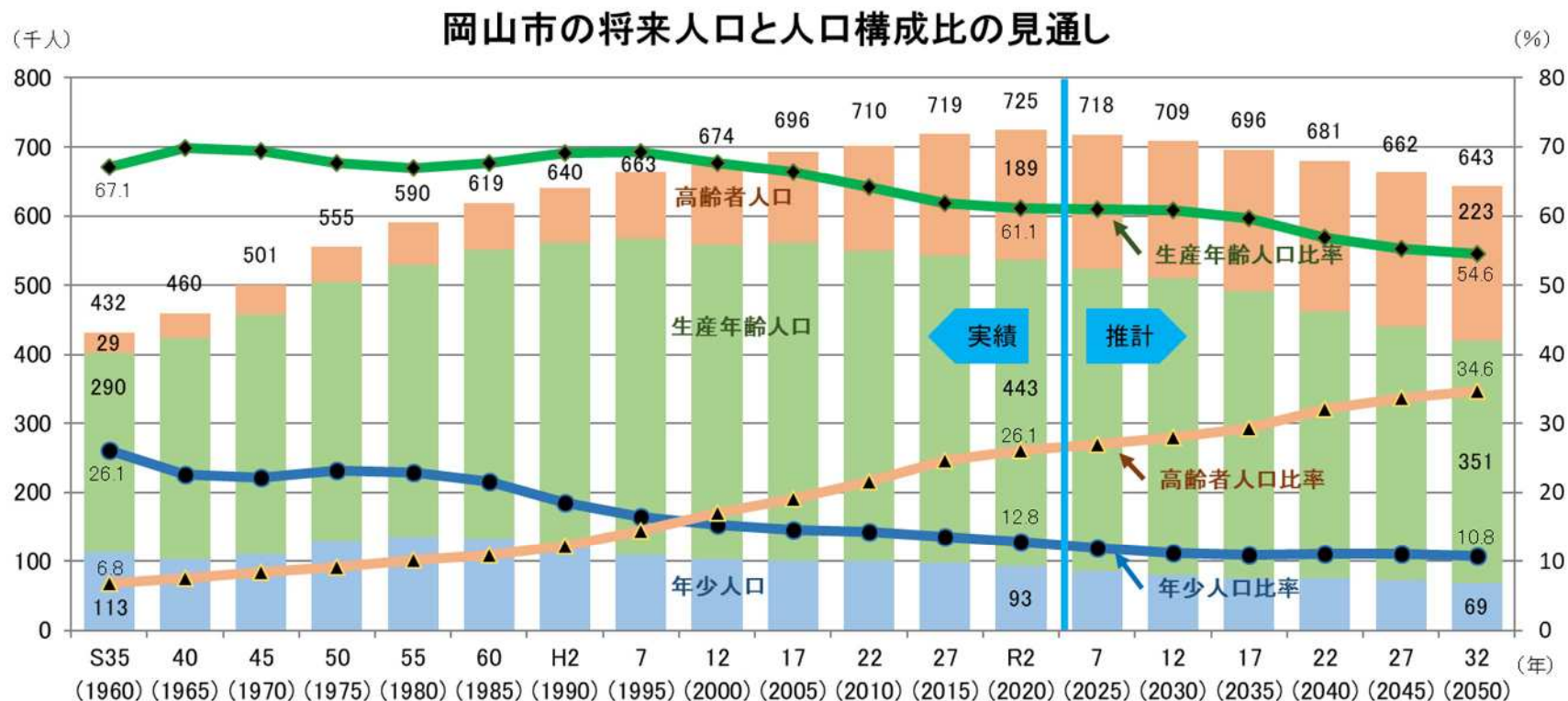


II. 人口の見通し（将来推計人口）

- ・まちづくりを考えるにあたっての基礎となる岡山市の人口はこれまで一貫して増加してきましたが、自然減の拡大等により、人口減少局面を迎えています。
- ・岡山市の総人口は、令和32（2050）年には64万3千人となり、令和2（2020）年より約8万2千人減少する見通しです。
- ・その間、生産年齢人口比率（15歳～64歳人口の比率）は低下し続け

る一方、高齢者人口比率（65歳以上人口の比率）は上昇を続け、令和32（2050）年には、令和2（2020）年の26.1％から8.5ポイント上昇し、34.6％となる見通しです。

- ・年少人口比率（0歳～14歳人口の比率）は令和17（2035）年頃まで低下するものの、以降は概ね横ばいとなる見通しです。



(注1)人口等は現在市域。

(注2)1975年～2010年は人口総数には年齢「不詳」を含む。ただし、人口比率は年齢「不詳」を除いて算出。

2015年及び2020年の年齢階級別人口は不詳補完値によるため、年齢不詳は存在しない。

2025年以降の年齢階級別人口は、総務省「令和2年国勢調査 参考表：不詳補完結果」による年齢不詳をあん分した人口に基づいて算出されていることから、年齢不詳は存在しない。なお、人口は外国人を含む総数。

(資料)実績値：総務省「国勢調査」(2015年及び2020年は不詳補完値による。)

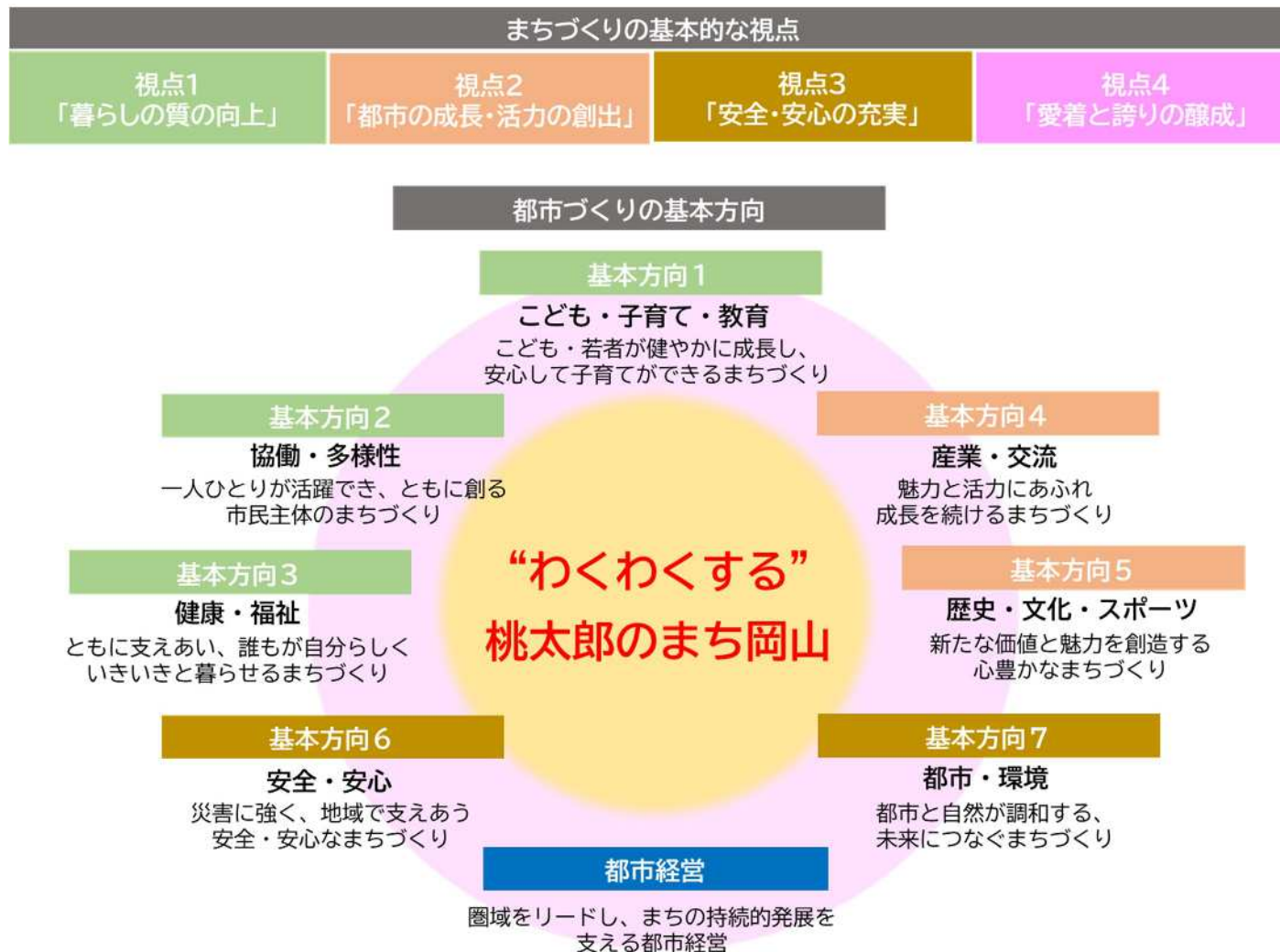
推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」

III. 都市づくりの基本方向

- ・「都市づくりの基本方向」は、長期構想に定める4つの「まちづくりの基本的な視点」に基づき、岡山市が取り組む政策を7つの分野に分け、各分野における取組の基本的な方向性を示すものです。

- ・また、都市経営では、これら7つの基本方向を着実に推進するために行政が取り組むべきことを示しています。

「まちづくりの基本的な視点」と「都市づくりの基本方向」の全体像



基本方向 1 こども・若者が健やかに成長し、安心して子育てができるまちづくり（こども・子育て・教育）

- こども・若者や家庭を取り巻く環境の変化を的確に捉えつつ、全てのこども・若者が健やかに成長し、将来にわたり幸福に暮らせるよう、こども・若者の権利を尊重しながら、社会全体で成長・自立を支えていきます。
- 保育の待機児童解消や子ども医療費助成の拡充など、これまでの子育て環境の充実に向けた歩みを止めることなく、妊娠期からの切れ目ない健康づくりへの支援や子育ての負担感や不安感を和らげる支援、放課後児童クラブの待機児童対策等の共働き・共育での推進などを通して、希望する誰もが安心して子どもを生み育てることができる環境づくりを進めます。
- 予測が困難で変化が激しい時代において、子どもたち一人一人が自己の可能性を切り拓き、他者と協働しながら、未来の社会の創り手となれるよう、「知・徳・体」の調和を図りつつ、それぞれの立場で主体的に社会に貢献する「自立する子ども」を育成します。
- 教職員の確保・資質能力の向上と教育D Xにより、働き方改革と指導体制の充実を図るとともに、安全・安心で快適な教育環境の整備を進め、子どもの育ちを支える基盤整備を推進します。
- 一人ひとりの豊かで幸せな人生と地域社会の持続的な発展の実現に向け、生涯にわたる学びを通じた自己実現を支援しつつ、ともに学び合い、地域の当事者として地域や社会に貢献する意欲を醸成します。

基本方向 2 一人ひとりが活躍でき、ともに創る市民主体のまちづくり（協働・多様性）

- 地域課題が複雑化・多様化し、地域活動の担い手不足が顕在化する中、ESDの推進やSDGsの目標達成に向けた実践活動を促進しつつ、行政・地域住民・NPO・企業や大学等の多様な主体がつながる場を創出します。

そして、それぞれの特性と強みをいかした協働による取組を推進することにより、持続可能な社会づくりを進めます。

- グローバル化の進展により国際交流の機会の増加が見込まれる中、これまでに培ってきた海外諸都市とのつながりを強化し、国外への効果的な情報発信やプレゼンスの向上に資する取組を進めます。また、国際交流の機会を通じてまちの魅力と活力を高め、市民のグローバルマインドの醸成のほか、外国人に選ばれ誰もが暮らしやすく活躍できる多文化共生の地域社会づくりを進めます。
- 社会の成熟化と多様化が進む中、年齢や性別、性的指向、国籍、障害の有無等によって差別や偏見を受けることなく、誰もが個人として等しく尊重され自分らしく活躍できる、包摂的で多様性に富んだ地域社会を実現するため、社会全体で人権を尊重しあう意識を高揚し、男女共同参画の推進や平和を大切にする意識の醸成を図ることにより、多様性を認め平和を願う人権尊重のまちづくりを進めます。

基本方向 3 ともに支え合い、誰もが自分らしくいきいきと暮らせるまちづくり（健康・福祉）

- 市民の健康に対する意識が年々高まる中、身体活動・運動、栄養・食生活、社会参加を三本柱に、世代間の交流や、企業や教育機関などの多様な主体との連携を強化し、誰もが自然に健康になれる社会環境づくりを進めます。また、平時から感染症による健康危機に備えるとともに、高齢者の就労、社会参加の促進による生涯現役社会づくりや介護予防の推進等に取り組めます。
- 孤独・孤立や8050問題、ヤングケアラーなど、生活課題が複雑化・複合化する中、地域で課題を抱えている人を孤立させず、適切な支援につなぐため、分野横断的なネットワークが張り巡らされた地域共生社会づくりを進めます。また、障害者、高齢者はもとより、誰もが自分らしく安心・快適に暮らせるユニバーサル社会の構築をハードとソフトの両面から進

めます。

- 2025年に全ての団塊の世代が後期高齢者となり、高齢化率の上昇や高齢者単身世帯の増加が続く中、支え合いの地域づくりや、豊富な医療・介護資源をいかした在宅医療・介護の推進、認知症対策の推進などを通して、住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまちづくりを進めます。

基本方向4 魅力と活力にあふれ成長を続けるまちづくり (産業・交流)

- 人口減少下でも地域経済を持続的に成長させるためには、市内企業の生産性や競争力を高めつつ、激変する事業環境への対応を支援する必要があります。新たな価値を生み出すイノベーションの創出や、事業成長支援と経営安定化の促進、拠点性をいかした企業立地の推進等を通して産業を振興し、地域経済の活性化を促進します。
- 生産性向上と持続可能性を両立できる農林水産業を振興するため、担い手確保や経営の安定化、生産基盤の確保・整備に加え、食と農の魅力発信による販路拡大や環境負荷低減策等を進めます。また、安全・安心な生鮮食料品等の安定供給のため、市場施設の最適化や活性化など、長期的な視点に立った市場経営を行います。
- 岡山城や日本遺産等の歴史・文化遺産の磨き上げと体験型コンテンツの造成・発信、ターゲットを絞ったMICE誘致の強化等を通して、岡山市の認知度・魅力度を高め、新たな来訪客やリピート客を獲得します。あわせて、首都圏・関西圏等からまちを支える人材の移住を促進し、国内外から多くの人を引き寄せる観光・交流のまちづくりを進めます。
- 岡山のまちなかは、市内のみならず圏域全体の発展をけん引する役割を担っていることから、国内外から様々な人が集い・交流する高次都市機能の充実・強化を図るとともに、居心地が良く快適で歩きたくなる都市空間の創出や、利便性の高い移動環境の整備を進め、更なる魅力・賑わいの創

出と回遊性の向上を進めます。

- 各地域において、固有の魅力をいかした活力があり持続可能な地域づくりを進めるため、地域の経済活性化、歴史・文化の継承、生活サービスの維持・向上の3つの視点のもと、多様な担い手の参画と協働を得ながら、地域の活性化と課題解決に向けて取り組みます。

基本方向5 新たな価値と魅力を創造する心豊かなまちづくり (歴史・文化・スポーツ)

- 岡山城や岡山後楽園をはじめとする岡山市固有の歴史・文化遺産に子どもたちから学び親しむ機会を提供するとともに、新たな魅力を掘り起こし、磨き上げ、国内外へ積極的に発信することにより、岡山への来訪者の増加や様々な交流による地域の活性化につなげ、市民が愛着と誇りを持てるまちづくりを進めます。
- 文化芸術施設を核として多様な主体と連携・交流しながら、身近な地域で幅広い分野の文化芸術の鑑賞や体験ができる機会の充実を図るとともに、市民の自主的・創造的な文化活動を促進するため、活動の成果を発表する機会の充実にも努め、文化芸術の振興による賑わい・活力の創出と心豊かに暮らせるまちづくりを進めます。
- スポーツに親しみ、楽しむ機会や場所の提供に加え、スポーツを通じて様々な人が集い、活動し、つながりを感じることができる取組を進めることにより、スポーツへの参画人口及び交流人口を拡大させ、市民の生活の質とまちの活力の向上、一体感の醸成につなげるとともに、市民のまちへの愛着と誇りを高めます。

基本方向6 災害に強く、地域で支えあう安全・安心なまちづくり (安全・安心)

- 市民の安全・安心を守り、災害による被害を最小限にとどめるため、平成30年7月豪雨の教訓を踏まえたハード・ソフト両面からの総合的な浸

水対策を進めるとともに、道路施設等の長寿命化・耐震補強など都市のインフラやライフラインの強靱化対策や用水路への転落防止対策を推進します。

- 地域の防災力を強化するため、市民一人ひとりの防災意識を向上させるとともに、自主防災組織の活動活発化など共助の対応力を高める取組を促進します。また、大規模化・多様化する災害や増加する救急需要に迅速・的確に対応できるよう、消防署所と教育訓練施設の機能強化や救急需要対策と救急業務の高度化などを通じて消防救急体制を充実・強化します。
- 暮らしを脅かす様々な被害から市民を守り、安全・安心な市民生活を確保していくため、地域防犯力の強化や交通安全対策、消費者教育を多様な主体と連携・協働しながら推進します。

基本方向 7 都市と自然が調和する、未来につなぐまちづくり (都市・環境)

- みどり豊かで風格あるまちづくりの実現のため、街路樹の再生等による緑のボリュームアップ等に取り組むとともに、西川、旭川等での憩いと賑わいの水辺空間づくりなど、岡山固有の景観資源の保存・形成に努めます。
- 人口減少や高齢化が一層進行する中であっても、各地域において市民の暮らしを支える拠点の形成と拠点間をつなぐネットワークの充実を通じて、市民生活の質と都市の活力の維持・向上を図るとともに、適正な土地利用の誘導により持続可能な都市づくりを進めます。また、増加する空き家への対策など安心で良好な住環境づくりを進めます。
- 誰もが安全で快適に移動できる交通環境を確保するため、公共交通を中心とする利便性の高い持続可能な交通ネットワークを構築します。また、買物、通院等の日常生活機能を担う身近な拠点へのアクセス性の向上を図りながら、徒歩、自転車、公共交通を中心とした、人と環境にやさしいライフスタイルを醸成します。
- 人と共生する多様で豊かな自然環境を次世代に継承していくため、環境

負荷低減への取組に加え、生物多様性の保全等に取り組むとともに、保全活動の担い手の確保・育成を支援します。

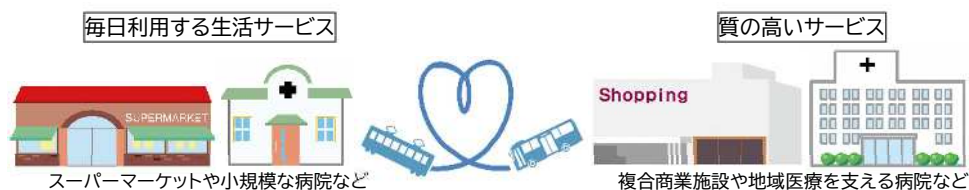
- 2050年温室効果ガス排出量実質ゼロの達成に向け、市民、事業者、行政が一丸となり排出量削減に向けた脱炭素化を一層加速させていくため、再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化等の取組を推進します。
- 循環型社会の構築に向けて、徹底したごみの減量化・資源化を進めます。また、処理施設の整備による安定的なごみ処理体制を確保します。

都市経営 圏域をリードし、まちの持続的发展を支える都市経営

- 人口減少をはじめ社会経済情勢の変化や市民ニーズの多様化等により、行政需要の更なる増加が見込まれる中、限られた行政の経営資源を効果的・効率的に運用し、市民目線でスピード感を持って対応していくことが求められます。財政の健全性を確保しつつ、時代の変化に柔軟に対応する組織づくりや、デジタル技術の活用による市民の利便性向上と業務効率化、わかりやすい市政情報の発信等を通して、将来世代に責任を持ち、持続可能な行財政運営に努めます。
- 圏域の中核拠点都市として、地域経済の成長と生活の質の向上との好循環を生み出し、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる持続可能なまちづくりを進めることにより、若者、女性をはじめ、あらゆる人に選ばれるまちの実現をめざします。また、連携中枢都市圏の枠組み等をいかし、関係市町との有機的な連携を深化させ、圏域全体の発展を力強くリードしていきます。

IV. めざす都市の形

人口減少・少子高齢化が進む中、誰もが「すこやかに」「しあわせに」暮らすためには、買い物や医療・福祉などの毎日利用する生活サービスはそれぞれの地域で、休日のお出かけや高度な医療といった質の高いサービスは都心・都市拠点で利用できることが重要です。多様な人、モノ、情報が活発に行き交い、市内はもとより周辺市町など他都市とも機能や役割を補完し合いながら、ともに発展する都市の形成を長期的な視点に立ちながらめざします。



【地域のつばが光り、ささえ合う岡山市】

～コンパクトでネットワーク化されたマスカット型都市構造～

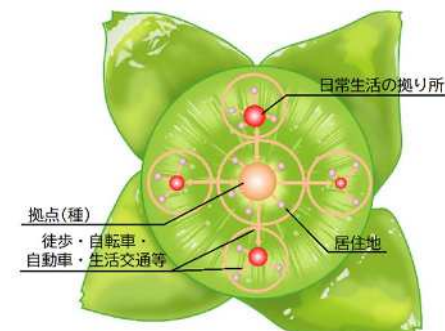
それぞれの拠点＜種＞においてスーパーや病院などの都市機能を確保し、それぞれの地域の生活圏＜粒＞の生活サービスを維持していきます。

さらに、歴史・文化など地域固有の魅力を発揮＜充実＞し、公共交通で結ばれた他の地域の生活圏＜粒＞との連携・補完が進むことで、岡山市＜房＞全体が支え合いながら成長する「コンパクトでネットワーク化された都市」を形成し、岡山市の特産の一つである＜マスカット・オブ・アレキサンドリア＞のように、「地域のつばが光り、ささえ合う岡山市」をめざします。

コンパクトでネットワーク化されたマスカット型都市構造



地域の生活圏（粒）のイメージ



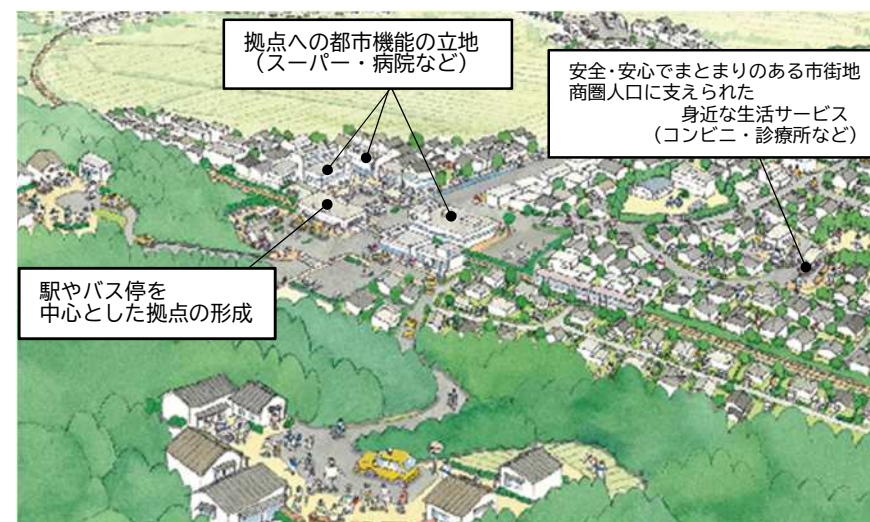
方向性 1 都市の活力を高め、市民の暮らしを支える拠点の形成

- 地域の生活圏の中には、小中学校区等を単位として、市民の暮らしを支える身近な生活サービス機能や、地域づくり活動・交流の中心としての役割等を担う様々な「日常生活の拠り所」があります。それぞれの地域固有の状況やニーズに応じて、拠り所を支えるまとまりのあるまちをつくることにより、持続可能な地域づくりを市民との協働により進めます。
- 各地域には、市民の日常生活の行動を基にした生活圏や、都市機能の集積状況、公共交通のほか、合併により市域を拡大してきた都市の成り立ち等を考慮し、「都心」、「都市拠点」、「地域拠点」を位置づけています。
- これらの拠点は、それぞれの特性に応じて、商業・業務、医療・福祉等の様々な都市機能の集積を図ることなどを通して、子どもから高齢者まで誰もが暮らしやすいサービスを提供するとともに、都市の成長エンジンとして発展することで、都市活動や市民生活を支えます。

■都市機能が担う役割

小中学校区等の小さな圏域の人々が利用するような施設 (身近な生活サービス機能)	・コンビニエンスストア 24	・診療所	商圏人口を維持することで身近な場所に立地
生活圏の人々が利用するような施設 (日常的な生活サービス機能)	・スーパーマーケット	・小規模な病院	都心・都市拠点・地域拠点に立地
複数の生活圏の人々が利用するような施設 (都市的サービス機能や地域の賑わい・交流機能)	・複合商業施設 Shopping	・地域医療を支援する病院	都心・都市拠点に立地
市内外の人々が利用するような広域的な施設 (都市の成長をけん引する高次な都市機能や賑わい・交流機能)	・美術館	・高度で専門的な病院	

■市民の暮らしを支える地域の生活圏



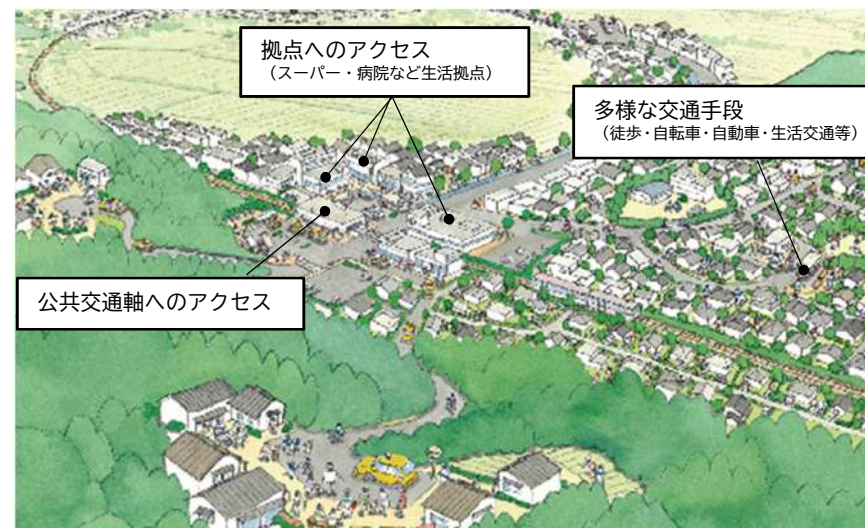
■公共交通でつながる「まち」



方向性2 安全・安心で利便性の高いネットワークの形成

- ・ 鉄道やバス等を中心に地域特性に応じて、徒歩、自転車、自動車、生活交通等を組み合わせて、利便性が高く、人とまちを元気にする交通ネットワークを構築します。
- ・ 都心や各地域の拠点をつなぐ連携軸では、公共交通の利便性を向上させるとともに、道路整備を推進し、都心と各地域との交流・連携を促進します。
- ・ また、地域の生活圏内では、誰もが安全・安心に暮らせる地域づくりに向けて、福祉、子育て・教育、防災・防犯、交通等の課題に市民との協働により取り組むため、地域コミュニティに根ざしたネットワークづくりを進めます。
- ・ さらに、中四国をつなぐ瀬戸内の中枢拠点都市として、周辺市町や国内外の諸都市とのネットワークを強化していきます。

■拠点にアクセスしやすい交通ネットワーク



■公共交通と道路のネットワーク

